

プロ野球ドラフト

福島に感謝 夢舞台へ

1軍で活躍する選手になり、明るい話題を届けたい。26日に東京都で開かれたプロ野球の新人選択会議(ドラフト会議)で指名されたソフトバンク6位の大山遼投手(21)と東日本国際大4年11、同育成1位の大泉周也外野手(24)と福島レッドホープス11、ロッテ育成5位の富山紘之進捕手(18)と会津北嶺高3年11は夢の扉を開いた。3選手は成長を支えてくれた福島への感謝を胸に、新たなステージへと突き進む。

大泉(Rホープス)ソフト育成1位 富山(会津北嶺高)ロッテ育成5位

プロ野球の新人選択会議(ドラフト会議)は26日、東京都内のホテルで開かれた。本県関係では、ソフトバンクから東日本国際大4年の大山遼投手(21)が6位で指名され、独立リーグルイトインBCリーグの福島

(22・30面に関連記事)

レッドホープスの大泉周也外野手(24)が育成1位で指名を受けた。会津北嶺高3年の富山紘之進捕手(18)はロッテから育成5位で指名された。3選手はいずれも入団に前向きな姿勢を示した。

プロ野球ドラフト 大山(東日本国際大) ソフト6位



大山遼投手
富山紘之進捕手



大山遼投手

大山投手は栃木県下野市出身。白鷲大足利高卒業後、東日本国際大に進学。平均140キロの伸びのある直球と多彩な変化球を操る。主戦を務めた3年春の全日本大学選手権で2007(平成19)年以来15年ぶりの4強に導いた。4年春の同選手権で154キロを計測した。南東北大学のリーグ戦で防御率0点台を3度マークするなど、驚異的な数字を残した。180センチ、80キロで右投げ右打ち。

ソフトバンクの指名を受け、活躍を誓う大山投手

津(北嶺)富山紘之進捕手(会津北嶺高)5位 支配下へ飛躍誓う



ロッテの帽子をかぶり、仲間に祝福される富山捕手(中央)

今夏の全国高校野球選手権福島大会の4強入りに続き、歴史を塗り替えた。会津北嶺高からのプロ入りは前身の若松一高時代を含め初めて。富山紘之進捕手は「うれしさでいっぱい。育成の期間を大事にして支配下で活躍できる選手に成長したい」と意気込んだ。篠原良部長(35)は「富山にとっても学校にとっても本当に光栄。後輩たちのいい刺激になる」と喜んだ。

後輩と練習を続けてきた。「会津北嶺で過ごした3年間は、プロを目指す自信につながった。会津の方々に堂々とプレーする姿を見せたい」と意気込んだ。篠原良部長(35)は「富山にとっても学校にとっても本当に光栄。後輩たちのいい刺激になる」と喜んだ。